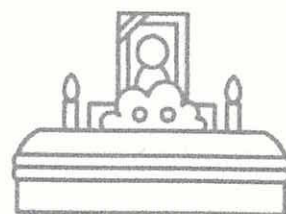


新型コロナワクチン問題



救急車出動件数700万件超え(2022年度)
東京都119番繋がらない(2023年)



2023年度火葬場1週間から10日待ち
超過死亡2011年3/11大震災の約3倍以上約30万人
過去45年間の業害の総合計数の死者上回る(神戸新聞、サンテレビ)



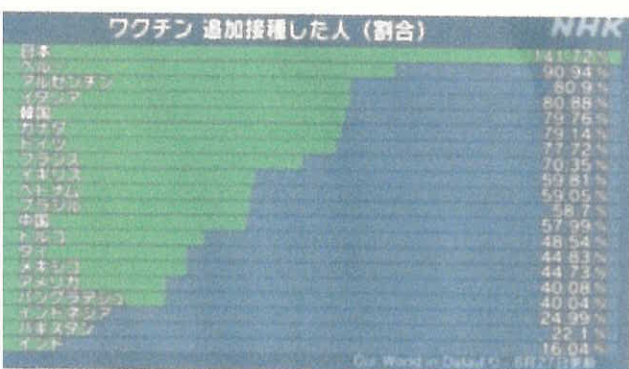
例年、30件程の心筋炎がワクチン打ち始め2021年度だけで1万件超える
2022年より心筋炎の総数の不開示
2022年11月、厚生労働省が心筋炎の数字を捏造、改竄発覚

治験は本来は人体実験と同じ意味であり、回復の見込みの無い人が志願して新型の薬等を人体に投入するものである

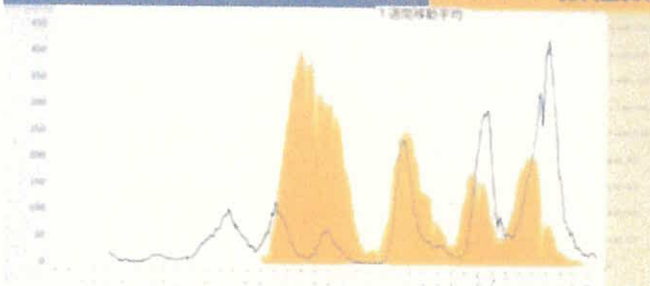


↑死者が増え続けているのに健康な人や子供に打ち続ける意味が有るのか？

- 厚生労働省は今年の8月から3年間に渡ってワクチンによる後遺症を調べる事を開始すると発表。2025年迄はワクチンの被害の実態の総数を出さずに数字を隠すつもりか？
- 大阪府泉大津市の南出市長の対策と同じく、書類送付を一旦止め、よく考えてもらってからワクチンの判断を個人一人一人の判断で決めるべきではないか？
- そもそも、数字を改竄している事で厚生労働省のデータは信用出来ず、正しい情報の真偽が分からない筈なのに厚生労働省のデータをトップダウン式で盲目に信用して良いのか？
- 上の事実から検証や事実を立ち止まって再確認しないといけないのに監視したり補正する機関が存在しない。上が嘘を着いたら専門家に情報を預けているので嘘でも被害が拡大しても最後まで付き合う結果となる結果は将来、被害が拡大してから事実が判明する。つまり、後の祭り状態(被害者が増え、手の付け所が不明になり対策が打てなくなると思われる
- 無料だからと言っても数字から見たら重症化予防の効果は一才無く。結果、死傷者数を増やしている状態が現段階の効果と言える。つまり、安物買いの銭失いで人の命と健康をただ、単に損失してる



新型コロナ陽性者の死亡数 ワクチン接種数



令和5年9月20日接種開始 XBB 対応ワクチン

マウスの試験のみ

- XBB.1.5 に対する中和抗体価 10^4 以上 10^5 未満
444⇒1,800
- 武漢株に対する中和抗体価 10^4 以上 10^5 未満
71,748⇒100,108

リスクは不明

- 人間での試験 情報なし

個人で纏めた資料は右のQRコードを読めばWebのリンクに飛びPDFをダウンロードする事が出来ます→



長引く症状に 悩まされていませんか？

新型コロナワクチン接種後に後遺症の症状を訴える方が急増しています。
ワクチン接種後からの長期的な体調不良を「ワクチン後遺症」と呼んでいます。
病院で検査しても異常がない、ワクチン後遺症だと診断されない場合もあります。

接種後に体調不良が続く場合は、ワクチン後遺症の可能性を疑いましょう。

【新型コロナワクチン後遺症の代表的な症状】



皮膚疾患・带状疱疹

コロナワクチンが導入されてから、免疫低下により年齢を問わない带状疱疹やその他、皮膚疾患が増えています。

ワクチン後遺症は、軽度なものから重篤なものまで多岐に渡ります。

接種後、数ヶ月～1年以上経過してから発症する可能性もあります。

ワクチン後遺症の情報を知りましょう！

「全国有志医師の会」サイトにワクチン後遺症に関する情報や治療に対応する病院の紹介をしています。

新型コロナワクチン後遺症の情報ページへ



新型コロナワクチン後遺症患者の会

ワクチン後遺症患者が一丸となり、治療方法が確立されていない現状の改善や社会的補償・治療費の救済等を求めて活動をしている団体です。

新型コロナワクチン後遺症患者の会TOPページへ



行政のワクチン接種記録の保存期間は最低5年です 「予防接種健康被害救済制度」への申請に備えましょう

万が一、ご自身やご家族が発症した時の申請のために書類の保管が必要です。

● **ワクチン接種証明書の保管** ● **必要な書類の保管、体調の変化の記録**

※ワクチン接種証明書を紛失された方はお住まいの自治体で記録保管期間内に再発行の手続きができます。

体調不良の原因がワクチンと疑わしい場合は申請をしましょう



全国有志医師の会

Volunteer Medical Association

新型コロナワクチン接種事業の中止、ワクチン被害者の救済を目指す医師・医療従事者の非営利団体

医師428人・歯科医師174人・獣医師73人・その他の医療従事者809人 合計1484人 (2023年5月1日現在)

全国有志医師の会は、新型コロナワクチン接種事業の即時中止を政府に強く求めて活動をしている有志医師及び医療従事者の団体です。海外の医師たちとも連携をとり、ワクチン後遺症の治療法の研究を重ね、後遺症患者の治療にあたりながら、被害者の救済を目指しています。

全国有志医師の会
TOPページへ



大手メディアでは
決して報道されない

新型コロナワクチン“薬害”を知ってください

新型コロナワクチン接種後に様々な健康被害や体調不良を訴える方や死亡する方が急増していますが、そのほとんどは国や公的機関による救済を受けられずに苦しい状況に置かれています。

2,000人を超える接種後の死亡報告

厚生労働省発表 コロナワクチン接種後の副反応疑い報告状況

ワクチン接種後の死亡者

2,059人

副反応の報告者

36,317人
(重篤者 8,528人)

第93回 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会(2023年4月28日)
「医療機関からの副反応疑い報告状況について」より

7,700件を超える健康被害救済申請件数

新型コロナワクチン接種後
健康被害救済審査状況

※2023年5月26日時点



申請受理 **7,735件**

第159回 厚生労働省疾病・障害認定審査会 感染症・予防接種審査分科会(2023年5月26日)
「新型コロナウイルス感染症予防接種健康被害審査部会の審議結果」より作成
※死因問わず、死亡一時金・葬祭料請求に対する認定件数
(出典:堀内有加里臨床薬学博士作成「予防接種救済申請受理数と審査状況についてのグラフ」より)

現在、新型コロナワクチン接種による「健康被害救済制度」の申請受理数が既に**7,700件**を超えています。さらなる増加の一途をたどっています。厚生労働省では申請の着手が追いかず、救済を受けられずにいる方が**4,700人**以上もいます。

世界で日本だけが続けている追加接種



(出典:札幌医科大学医学部附属フロンティア医学研究所ゲノム医科学部門)

日本は、世界に比べ圧倒的に多い接種回数となっています。海外の各国では、国民が危険性に気付き2~3回の接種で止めました。現在、日本だけがワクチンによる被害を無視したままで、4回、5回、6回と追加接種を続けています。

NPO法人 駆け込み寺2020・ワクチン被害者遺族の会「繋ぐ会」

接種による死亡が疑われる被害者遺族の相談先

ワクチン被害者の救済を目的とした、代表の鶴川和久氏をはじめ、賛同議員、弁護士、医師有志で構成された団体です。被害者遺族だけでなく、ワクチンハラスメントで苦しむ方への無料の相談窓口も設けています。ワクチン被害者遺族の会「繋ぐ会」を結成して、ワクチン薬害の集団訴訟の準備が進められています。

NPO法人駆け込み寺2020
TOPページへ



追加接種の度に危険性が増します

新型コロナワクチン(mRNAワクチン)の危険性

新型コロナワクチンは人類初の mRNA 遺伝子製剤です。コロナウイルスのスパイクタンパクが人の細胞で作られ、その抗体が自己の免疫反応で生産されるという全く新しい技術の製剤です。このスパイクタンパクが人体に毒性を持つこと、ワクチンの mRNA には人工的な加工が施され、それが人体に様々な悪影響を及ぼす可能性があります。また、長期的な人体への影響は不明です。

国内外での研究・調査では、現在までに以下の事が判明しています。

- ▲ **ワクチン接種者の方がコロナに感染しやすくなり、死亡リスクも高まる。**
- ▲ **人体の免疫が攪乱され、他の感染症や病気を発症しやすくなる。**
- ▲ **スパイクタンパクの毒性により、血栓症や血管炎などを引き起こす可能性が高まる。**
- ▲ **スパイクタンパクを産生する細胞が自己の免疫に攻撃され、自己免疫疾患を発症する可能性が高まる。**



このような危険性の高いワクチンを今後追加接種する必要はありません

全国有志医師の会

